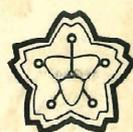


中原消防 90 周年記念史

郷土愛



川崎市中原消防団



団旗



消防庁長官表彰

平成4年度 竿頭綬
 平成15年度 表彰旗
 平成19年度 消防団地域活動表彰



日本消防協会会長表彰

昭和20年度 竿頭綬
 昭和25年度 竿頭綬
 昭和35年度 表彰旗
 昭和55年度 竿頭綬
 平成14年度 竿頭綬
 平成26年度 表彰旗



神奈川県消防協会
 会長表彰

平成3年度 竿頭綬
 平成24年度 竿頭綬

目次

記念史発刊にあたり	中原消防団長	小島光儀	1
中原消防発足 90 周年を祝して	中原区長	鈴木賢二	2
中原消防 90 周年を祝して	中原消防署長	高嶋 敏	3
90 周年を祝して	第 8 代団長	中田 隆	4
	第 9 代団長	松原重代	5
	第 13 代団長	内藤雅光	5
	第 14 代団長	大谷正勝	6
	第 15 代団長	田中 実	6
	第 16 代団長	生坂征一	7
中原消防の変遷			8
歴代の長			9
沿革			10
編成			27
中原消防団本部・各分団紹介			28
中原消防団消防大会			34
神奈川県消防操法大会			36
川崎市消防団操法大会			37
中原消防団歴代幹部一覧			38
叙勲受章者			40
褒章受章者・消防庁長官表彰受章者			41
団員名簿			43

表紙題字「郷土愛」：中原消防団第 8 代団長 中田 隆氏

記念史発刊にあたり

中原消防団長 小島 光 儀



このたび、我が中原消防が90周年を迎え、記念史を発刊することが出来ましたことは、これまで消防団活動に永年携わってきた全ての方のご尽力とご協力があるおかげであります。まず、心より感謝申し上げます。

中原消防80周年以降の大きな出来事としましては、やはり、今から4年前の平成23年3月11日14時46分に発生しました東日本大震災が記憶に残っております。約2万人もの尊い命が奪われ、日本中が混乱に陥りました。そのような状況においても、東北地方の消防団員は一致団結し、この危機的状況を乗り越えようと現在も奮闘しております。

我々も、自分達の町は自分達で守るという「郷土愛」の精神のもと、有事の際には町の防災リーダーとして力を合わせ団結しなければなりません。また、このような精神を後世に引き継ぎ伝承するため、私たち消防団はこれまで同様、団員教育、訓練、災害活動に精神誠意邁進してまいりますので、今後とも諸先輩方の皆様、何卒ご指導賜りたくお願い申し上げます。

今回、発刊にあたり寄稿いただきました鈴木中原区長、高嶋中原消防署長、歴代消防団長の方々、さらに記念史の編集をされた編集委員、中原消防団全団員の皆様から感謝申し上げます。

終わりに、10年後には中原消防100周年を迎えます。この100周年に向け、中原消防団がより強固な精神を鍛え、郷土愛を育み、地元根付いた活動を続けることを皆様にお約束したいと思います。

中原消防発足 90 周年を祝して

中原区長 鈴木 賢 二



中原消防発足 90 周年を迎えられましたことに、心よりお喜び申し上げます。

また、中原消防団の皆様におかれましては、郷土愛と地域への献身の精神に基づき、生業の傍ら、訓練に励み、災害による被害軽減のために日ごろから活動されておりますことに、心より感謝申し上げます。

今年 5 月末の鹿児島県口永良部島の噴火に始まり、箱根山や浅間山の入山規制、また昨年は広島市における土砂災害、都心部における 20 年ぶりの大雪など、全国各地で自然災害が猛威を振るっているところでございまして、ひとたび災害が発生すれば現場に駆け付け、果敢に活動する消防団に、区民は大きな信頼と期待を寄せています。

また、中原消防団では、日頃の活動に加えて、区民祭をはじめ様々な機会を捉えて、活動内容やその重要性を PR し、団員募集にも力を入れていると聞いております。

区民の皆様が安心して安全に暮らしていける地域づくりは、私ども区役所にとりましても重要な課題でございまして、発生率が日々高まってきているといわれる首都直下型地震や東海地震に備え、町内会や関係団体、ボランティア等による自主防災組織の防災訓練を通し、地域の防災力を強化するなど危機管理対策を推進しているところでございます。

その中でも、消防団の皆様には、地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わず地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担っていただいております。

結びに、中原消防団のますますのご発展と、団員各位のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

中原消防 90 周年を祝して



中原消防署長 高 嶋 敏

中原消防 90 周年を心からお慶び申し上げます。

大正 14 年 5 月に中原消防組が誕生してから現在に至るまで、郷土愛の精神に裏打ちされ、諸先輩や現職消防団員の皆様の地道な努力により今や地域防災の欠くことのできない要として大きく成長して来られました。

90 年の重み。中原消防団の歴史には都市の復興とともに多くの努力を重ねた足跡と幾多の災害との闘いが刻まれております。

中原消防団の名誉ある伝統と輝かしい実績を築いて来られました消防団員のみなさま、そのご家族様、そして消防団育成にご尽力いただきました関係機関並びに地域のみなさまに心から感謝申し上げます。

消防団を取り巻く環境も時代とともに大きく変化しており、災害は、都市化の進展とともに複雑多様化、広域且つ大規模化の傾向にあります。とりわけ東日本大震災の教訓を踏まえ、一層の強化としていわゆる「消防団の充実強化法」が制定され、消防団は地域の絶対的中核たらんとされ、市民から大きな期待をされております。

このような中、ご存知のとおり中原消防団は火災などの災害から「自分達の街は自分達で守る」という強い郷土愛の精神で市民の安全安心を守るために幅広い消防団活動を展開し、自主・自己完結型を旨とする中原消防団では訓練についても工夫されており、毎年開催されます消防大会をご覧になられた方はご存知と思われそうですが、基本である小型ポンプ操法は当然ですが、他に応急救護訓練、防火衣着装訓練、ホース延長・伝令・収納訓練、実戦を想定した実戦応用操法、訓練礼式を取り入れた小隊訓練など全てにわたり実戦を想定した、正に有事を前提とした訓練を取り入れております。これこそ長い間、災害と真っ向勝負で得た尊い試練・教訓から形成されたものであると思います。

消防署といたしましてもこのように心強い中原消防団と良きパートナーとして災害対応が出来る喜びを常に感じているところで、将来にわたり緊密な連携を図り、中原区民の安全・安心を確保するため各種施策を強力に推進して参る所存でございます。

今、ここに「中原消防 90 周年記念史」を発刊し 90 年を回顧されますことは、今後の中原消防団を築く上で大変意義深いことと存じます。

そして、私自身このような歴史的場面にご一緒させて頂けましたことを生涯の喜びと感じております。

本記念史の発刊を機に中原消防団の一層の団結と今後の活躍を期待するとともに、限りない発展を祈念いたしましてお祝いのことばいたします。

90周年を祝して

第8代団長

中 田 隆



大正14年(1925年)9月1日中原消防団の前身である中原町消防組が発足して90年を迎えました。心よりお祝いを申し上げます。

さて90年前を振り返ってみますと、中原町誕生当時の人口は、旧中原村が4789人(887戸)、旧住吉村が3441人(452戸)で、消防組は旧中原村が北、旧住吉村は南と編成され、定員638名とし中原町消防組が発足したのであった。約半数の家から消防組員を出していたことになり、それだけ町を挙げての防火にあたっていたことが判り、重要な組織であったのです。現在の玉川分団地区は御幸村であり、前年大師村、川崎村と合併し川崎市になっていた。

当時の主要道路は中原街道と府中街道のみで、それも砂利道、鉄道は南武線が多摩川砂利鉄道として施設されたばかり、駅は村はずれの田園の中にポツンと有るといって、東急線は東京横浜電気鉄道として施設工事中であったのだ。両線とも開通した当初には武蔵小杉駅は無く、南武線は今の区役所付近にグランド前という駅があったのです。因みに、綱島街道は昭和11年ごろ、尻手黒川道路にいたっては、中原地区に開通したのは昭和30年です。

それから90年、中原区の人口は約30倍に膨れ上がり、武蔵小杉周辺は高層ビルが林立し、地域の発展は、今昔の感です。

しかし、その間に携われた多くの方々のご苦勞、流された汗の結晶の積み重ねが、中原消防団の90年という大きな礎石として輝いているのだと思います。

以前、自衛隊富士学校を見学した折、表敬訪問の機会を頂き、学校長陸将田原克芳閣下から頂いた詩を掲載させていただきます。

【 山紫水明の我が国土

悠久の歴史と栄えある文化

その中であって慈しみあう人と人

静かな花鳥風月の趣の中にさえ

人生辛いこと苦しいこともある

しかし明日という日もあり

限りない夢もある

目に花を 胸に希望を そして唇に歌を

いざ歌わんかな 心の歌を 】

私は、この詩に国を愛し、郷土を愛する心の原点があると思っております。

この90年を大きな節として、郷土愛を自負とし、日々精進され、誇れる消防団、信頼される消防団として活躍されることを願います。

90周年を祝して

第9代団長

松原重代



中原消防90周年を心からお祝い申し上げます。私は昭和19年4月、17才の時に前身である警防団に入団し、その後約半世紀に亘って消防団活動に尽してきました。その中でも鮮烈な印象として残っているのが、川崎大空襲です。当時は手押しポンプしかなく、焼夷弾で燃え上がる炎を必死になって消火活動にあたりましたが、団員の「自分たちが町を守るんだ」という一体感はとても強いものでした。私はこの思いがまさに消防団の原点であると思います。時には自分の仕事や家族との憩いの時間を捨て、災害現場へ飛んで行くこともあると思います。それが出来るのもこの原点があるからこそです。

また、私は平成4年より中原消防団長を務め、同6年 大戸分団が神奈川県消防操法大会に出場することにあたり、2年かけて訓練に励み、実質2位の成績を上げることが出来たことは大変大きな思い出の一つになっています。期間をかけて努力することは大切です。日頃の訓練の積み重ね、仲間との信頼関係、地域の絆を時間をかけて真剣につくってきたからこそ、今の消防団活動になっていると思います。

今後更なる努力を重ね、地域の安全・安心の為に一体となって励むことをお願いすると共に、中原消防団の発展と団員各位のご健康を心から祈念し、私の祝辞とさせていただきます。

90周年を祝して

第13代団長

内藤雅光



中原消防90周年を心よりお祝い申し上げます。この大きな節目を期に記念史が発刊されますことは誠に意義深いことであり、中原消防団の精神であります「郷土愛」に基づき崇高な使命をもって活動をされてこられました先人の偉業を後世に伝える貴重な財産であると確信いたします。記念史発刊の編集に当られました皆様に心から敬意を表します。

私は昭和57年2月に中原消防団員に任命され、先輩はじめ団員の皆様の温かいご指導ご協力を賜り、平成16年4月1日に第13代中原消防団長を任命され、在任中に川崎市制80周年の記念すべき年に中原消防80周年記念式典・祝賀会開催、記念史の発刊が出来ましたことは、偏に多くの皆様のお蔭と衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、消防団は昭和22年の制度発足以来、地域防災の中核として火災等の災害から住民の生命・身体・財産を守る上で重要な役割を果たして参りました。しかし消防団を取巻く現況は都市化の進展、社会構造・就業構造の変化、地域における住民連帯意識の希薄化等に伴い「自分たちの地域は自分たちで守る」という基本理念が薄らいでおり、消防団員の高齢化と欠員という問題が生じております。大規模災害が危惧される中、消防団は地域防災の中核として自助・共助の住民連帯意識を高め、安全で災害に強い街づくりに向けご努力頂きますことを望むものであります。

最後に伝統ある中原消防団の崇高な精神であります「郷土愛」を後世まで受け継いで頂くことをお願いすると共に、中原消防団の更なるご発展と団員の皆様のご健勝を祈念申し上げお祝いにかえさせていただきます。

90周年を祝して

第14代団長

大谷正勝



中原消防発足90周年を心からお祝い申し上げます。郷土愛に満ちた多くの先輩の方々が、私達の町を数多くの災害から守ってこられたことに対し、深甚なる感謝と畏敬の念を感じております。

90年という長い歴史を顧みれば、あの関東大震災発生後の2年後の大正14年に中原消防組が編成され、その後太平洋戦争の勃発、そして終戦と混乱期の時代に多くの先人の方々が、我が郷土を守ってこられたことは、強靱な「郷土愛」の精神そのものであると思います。その後、幾多の変遷がある中、この消防精神は少しも変化し、動じることなく、今日まで我々に受け継がれてきました。

今日の我々の周囲には、社会環境の変化、著しい人口増加、団員数の減少等、我々消防人に対する課題は山積しています。

今後の中原消防団は都市型消防団としてのあるべき姿を希求し、団員相互の強い団結力と地域においての、災害防止のための住民指導等を通じて、地域の防災組織との絆を強くすることにより、中原消防団の伝統である郷土愛の精神を、後世に継承していくことが可能であると思います。そして、現在の中原消防団の課題は、大規模な地震災害が発生した際に、如何にして地域住民の生命・財産を守るかにあると思います。そのためには、通常の火災時の訓練以上に、震災時を想定した対応訓練を数多く実施することが求められると思います。

今後とも団員諸兄におかれましては、常に地域防災のリーガーであるとの自信と誇りを胸に活躍をしていただきたいと思っております。

終わりに、今後の中原消防団の尚一層の発展をご祈念申し上げお祝いの言葉といたします。

90周年を祝して

第15代団長

田中実



中原消防90周年を迎え心よりお喜び申し上げます。

90年の長期に渡り先輩の皆様方より崇高な任務もって、地域の防火・防災の要として引き継がれてきたことに敬意を深く感じると共に、小島団長を中心に団員皆様が中原の安全・安心のためにご活躍されていることに感謝申し上げます。

90周年事業の開催にあたり、中原消防団のご努力に対し重ねてお礼申し上げます。

私は、平成22年4月より15代団長に任命され団員皆様には、暖かいご支援・ご協力を頂き3年間職務を全うすることが出来ました。

しかし、日本では全国各地で多くの自然災害が発生し国民の尊い生命と財産が奪われています。そんな中、平成23年3月11日には決して忘れることのできない東日本大震災が発生し、東北地方に加え関東地方沿岸部にかけて甚大な被害をもたらしました。私達消防団員の仲間250数名も犠牲になられとても残念でなりません。いつも「人」はその直後は記憶にとどめますが、時が経つにつれ悲しいことです。記憶が薄れて行きます。決して忘れることなく後世の人に伝えてゆかなければなりません。振り返りますと私達の住む中原は、平成に入り急激に人口が増え大都市東京と変わらない町へと変貌しました。消防団は退団しましたが、私達の町に少しでも減災できるよう今後も小さな力で努力してゆきたいと思っております。

最後に「郷土愛」の精神のもと中原消防団が地域に信頼される団に発展し続けることを祈念し御祝にかえさせて頂きます。

90周年を祝して

第16代団長

生坂 征一



このたび、中原消防90周年を迎え、心からお祝い申し上げます。

また、本来であれば、私が消防団長という立場で、この90周年を迎えなければならないのですが、私病により任期を1年残し、退団に至ってしまったことを残念に思うとともに、中原消防団の関係する全ての皆様にお詫びをしなければいけないと思っております。幸いにも体調は以前のように回復してきております。ご心配をかけてしまい申し訳ありませんでした。

私は中原消防団に昭和42年4月入団し、下沼部の消防団員と共に消防車を運転していたことが昨日のことのように思い出されます。

また、平成16年1月には、玉川分団の分団長となり、平成25年4月には、玉川分団出身の団員としては、初めて団長に就任し、第16代中原消防団長を務めることとなりました。

これも、みなさんの協力があったからこそと感謝しております。

私が団長に就任していた平成27年3月には、昭和35年以来となる表彰旗を日本消防協会よりいただくことができました。

最後に、私は志半ばで、消防団を退団しなければならなくなりましたが、消防団OB及び現役消防団の皆様におかれましては、身体に気をつけて今後とも、この我が街、中原区のために尽力していただくことを願い、お祝いの言葉とさせていただきます。



日本消防協会表彰旗（平成26年度）

中原消防の変遷

- 大正 14 年 9 月 **中原消防組**（中原町の誕生により発足）
旧中原村を北七部編成
旧住吉村を南五部編成とした
総員 638 名
初代組頭 鹿島育久
- 昭和 8 年 8 月 **川崎第五消防組**（中原町の川崎市編入により）
北を一部
南を二部とした
定員 101 名
初代組頭 石井弥吉
- 昭和 14 年 4 月 **川崎第五警防団**（戦時下の防空警防体制確立のため消防組と防護団を一元化した）
一部を第一分団
二部を第二分団
日吉地区を第三分団の 3 分団編成とした
定員 不詳
初代団長 市川 郁
- 昭和 17 年 12 月 **中原警防団**（中原警察署の設置に伴い再編成）
第一分団（中原地区）
第二分団（住吉地区）
第三分団（日吉地区）
第四分団（大戸地区）
第五分団（玉川地区）の 5 分団編成とした
基幹団員 714 名 普通団員 650 名
初代団長 市川 郁
- 昭和 22 年 10 月 **中原消防団**（戦後の消防団の発足）
中原分団、住吉分団、日吉分団
大戸分団、玉川分団、丸子分団 の 6 分団編成とした
定員 345 名
初代団長 市川 郁
- 昭和 47 年 4 月 川崎市に区制が施行され 日吉分団が幸消防団へ編入
中原消防団 5 分団編成となる
定員 285 名
- 平成 8 年 4 月 消防団の活性化と運営の合理化により 定員が 265 名
に変更となる
消防団員任免条例の一部改正により 同年 9 月付けで
神奈川県下で初めて女性消防団員 3 名が入団

歴代の長



鹿島育久
中原消防組初代組頭
大正14年～昭和4年



徳植武勝
2代組頭
昭和4年～昭和5年



石井弥吉
3代組頭
昭和5年～昭和8年
川崎第5消防組初代組頭
昭和8年～昭和10年



市川 郁
2代組頭
昭和10年～昭和14年
川崎第5警防団初代団長
昭和14年～昭和17年
中原警防団初代団長
昭和17年～昭和22年
中原消防団初代団長
昭和22年～昭和44年



田辺 亘
2代団長
昭和44年～昭和50年



金子治郎
3代団長
昭和50年～昭和52年



原 省作
4代団長
昭和52年～昭和55年



小島鎌吉
5代団長
昭和55年～昭和58年



矢作富二雄
6代団長
昭和58年～昭和61年



和田平作
7代団長
昭和61年～平成元年



中田 隆
8代団長
平成元年～平成4年



松原重代
9代団長
平成4年～平成7年



石原 肇
10代団長
平成7年～平成10年



横山良雄
11代団長
平成10年～平成13年



高 巖
12代団長
平成13年～平成16年



内藤雅光
13代団長
平成16年～平成19年



大谷正勝
14代団長
平成19年～平成22年



田中 実
15代団長
平成22年～平成25年



生坂征一
16代団長
平成25年～平成27年



小島光儀
17代団長
平成27年～